

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel : 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

先月インドネシアにて開催された NARBO 総会の場で、日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) が水資源に特化した国際ネットワークである NARBO (アジア河川流域機関ネットワーク) に加入しました。

この度の加入は、JRRN と NARBO が所有するネットワークを相互に活用しながら、JRRN の活動の幅を広げていくことが目的です。今後、JRRN と NARBO は互いの活動を通して河川環境について多くの経験を有する日本の事例を国外に向けても発信

していきます。

JRRN は、アジア諸国における様々な水辺再生の取り組みを日本国内に還元する役目を担うよう一層努力し、国内外の河川の再生や水辺の活性化に関わる多くの方々と情報・意見の交換ができる仕組みづくり、情報発信、イベントの開催を行います。

今後とも、私達の活動にご賛同頂ける会員の増加、更なる活動の充実を図ります。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

活動報告(1)

JRRN が NARBO (アジア河川流域機関ネットワーク) へ加入

2008 年 2 月 22 日 (金) にインドネシア国スラカルタ市において第 3 回 NARBO 総会が開催され、JRRN が NARBO に加入することが承認されました。



NARBO 総会の様子

NARBO (アジア河川流域機関ネットワーク) とは？

アジア全体の河川流域における統合的水資源管理 (IWRM) 達成の支援を行う国際的なネットワーク。2004 年 2 月にインドネシアのバツにて設立され、アジアモンスーン地域のそれぞれの地域に適合した統合的水資源管理の確立に向け、実際に現場で水資源施設を管理する河川流域機関、水関連部門、知識パートナー組織間の情報や経験を共有し、相互に協力しながら各機関の水資源管理の能力を高める活動を行っている。
<http://www.narbo.jp/>

JRRN が目指す河川・水辺の再生は、行政や地域住民等が連携し、適正な水の管理が為された結果達成できるという点において、NARBO が推進する統合的水資源管理とも大いに関連があります。

そのため、国内外の河川再生に関わる人や情報の循環の際の貴重なリソースとして、NARBO の活動を通じ JRRN の活動の幅を広げていきたいと思ひます。

なお、NARBO メンバーは2年に一度開催される総会にて承認され、今回の総会では、JRRN を含め、次の 9 つの河川に関する組織が加入致しました。

新規加入団体一覧

国名	組織名
パキスタン	インダス川流域機関
タイ	Bang Pakong Prachinburi 及び Tonlesab 河川流域委員会
スリランカ	スリランカ国立水文研究所
オーストラリア	国際水センター
中国	国際河岸侵食・堆積センター
日本	財団法人水資源協会 (JAWA)
日本	京都大学経営管理大学院
日本	日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
日本	水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/476.html>

活動報告(2)

インドネシア・スラカルタ市 訪問記

2008 年 2 月 20 日～22 日にかけて、インドネシア国スラカタ（ソロ）市で NARBO 総会とその関連行事が開催され、JRRN 事務局より二名が参加して参りました。

初日は統合水資源管理の現場視察を目的とした研修ツアーが行われ、約 30 年前に日本の ODA で建設されたウオノギリダムやその下流部の灌漑施設を見学し、参加者と河川に関する様々な意見交換を行いました。



現地視察の様子

2 日目は、NARBO が進める統合水資源管理に関するワークショップが開催され、各国での流域レベルでの取り組みや、河川管理に関わる国際機関の紹介、また統合水資源管理に向けた新たな取り組みに関する講演と盛んなディスカッションが

行われ、JRRN としてアジアの河川再生の動向や統合水資源管理との接点、また ARRAN や JRRN の紹介など約 40 分間の講演を行いました。



JRRN 事務局の講演の様子

講演後のパネルディスカッションでは、ADB（アジア開発銀行）の水部門責任者である Wouter T. Lincklaen 氏から、『統合水資源管理は難しい概念だが、市民が目目の前の川を好きになり、水を愛することができる環境づくりこそが目指すべき方向だろう。その意味で、ARRN や JRRN の活動は素晴らしく、NARBO が進める統合水資源管理との関連も多いため、今後の活動を大いに期待したい。また NARBO と協働できる部分も多く、今回参加頂き、一緒に活動して頂けることを感謝する。』とのコメントを頂きました。その他、タイ、インド

ネシア、ベトナム等諸外国からの参加者に個別に質問、詳しい説明を求められる等、当ネットワークの活動に対し、大きな反響も頂きました。

最終日は NARBO の第三回総会が開催され、基調講演として国土交通省土地・水資源局水資源部長より日本の IWRM の取り組みに関する講演が行われ、続いて NARBO 事務局が中心となり、過去 2 年間の NARBO 活動報告、今後 2 年間の活動計画、また新メンバー加入の承認や新たな組織体制等について活発な報告と議論が行われました。

今回の参加は、JRRN 及び ARRNN の活動を多くの方々に PR する貴重な機会となりました。また、当ネットワークの活動に対して予想外に多くの

方々の賛同をいただいたことも、また今後の活動の大きな励みとなりました。

今後とも、JRRN、ARRNN として様々な情報を整備しながら、積極的な国内外関係者との交流を図って参ります。



参加者全員での集合写真

寄稿記事

六堰頭首工

埼玉県川本町の荒川にある「六堰頭首工^{ろくぜきとうしゅこう}」は、国土交通省が「緩こう配魚道」と「流水改善水路」を併設し、堰本体を農林水産省が改築し、2003 年 5 月に完成しました。両省がこれほどの大規模な事業を共同で整備したことは極めて稀だといえます。



農林水産省が改築した六堰頭首工



階段式魚道



流水改善水路

寄稿者：JRRN 会員・今西由美（国土文化研究所）

六堰頭首工は、流域の水田などで使う農業用水を、最大で毎秒 17m³ 取水しています。1939 年に造られた旧頭首工は老朽化していたうえ、固定堰だったため、魚の遡上の問題と、堰の下流に供給する水を制御できないという二つの問題を抱えていました。渇水時になると、流れが途切れて河床全面が露出する「瀬切れ」という現象が起きていました。このような課題解決に向けて、国土交通省は、魚の遡上に対しては、緩こう配魚道を整備し、さらに下流に必要な最小限の水を常時流す流水改善水路をつくりました。魚道の形は図面段階では決めず、現場で臨機応変に蛇行させる、幅を変えるなど綿密な工夫をされたそうです。

住民からは「段差がなく普通の川みたいな緩い魚道に喜ぶ魚がいるかもしれない」との評価の声があがっています。またこの場所は、農林水産省による六堰頭首工北側の環境整備と連携した新たな景観散策ルート、あるいは魚や水生植物などを近くで観察することのできる環境学習の場などとして、様々な活用がなされています。

会議・イベント等 (2008 年 3 月)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

- ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

(その他の河川再生に関する主なイベント)

- 流域の持続性と生物多様性

- 日時：平成 20 年 3 月 2 日 (日) 14:00～17:30
- 会場：名古屋大学 IB 電子情報館 大講義室
- 主催：文部科学省科学技術振興調整費研究・「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」研究グループ

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/473.html>

- 自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて

- 日時：平成 20 年 3 月 17 日 (月) 13:00～18:00
- 会場：日本学術会議講堂
- 主催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会 他

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/462.html>

- 第 118 回河川文化を語る会「いのちと水を守る森の再生をめざして」

- 日時：平成 20 年 3 月 17 日 (月) 18:00～20:00
- 会場：厚生会館 (全国土木建築健保)
- 主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/427.html>

各会の詳細は記載した URL のホームページよりご確認ください。

冊子・ビデオ等の紹介

- 舟運都市—水辺からの都市再生 (2008.2 発刊)

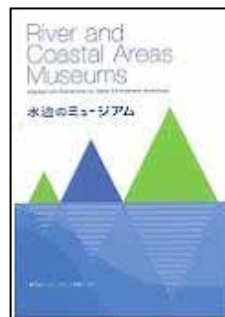
- ・ 編 纂：三浦 裕二
- ・ 出版社名：鹿島出版会
- ・ 発行年月：2008 年 2 月
- ・ 価 格：¥ 3,150(税込)



本書は、地球環境問題への対応や都市の再生、観光等の面でさらなる活用が期待されている河川や運河の舟運をテーマに、都市に水辺の生かす都市再生といった視点から事例や考え方が紹介されています。

- 水辺のミュージアム (2007.9 発行)

- ・ 発 行：(財)リバーフロント整備センター
- ・ 価 格：無 料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN は設立して 2 年目を迎えました。JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

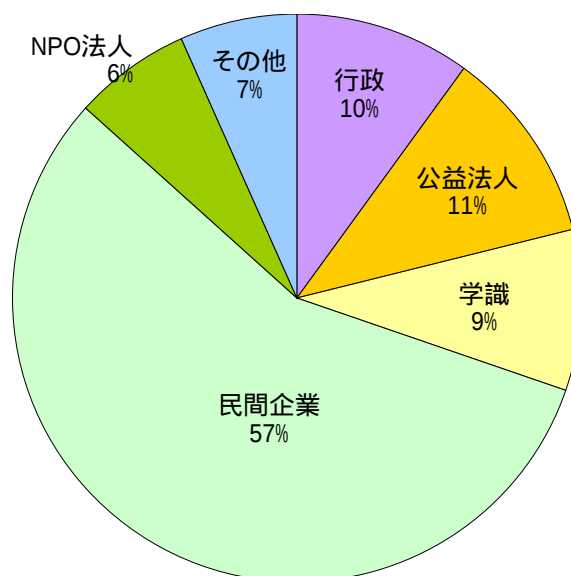
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 2 月 28 日時点の会員構成

■ JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター 技術普及部

問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>